教師を育てた
言葉たち

No. 017

岡山県立総社（そうじゃ）高校
三村美紀先生
みむら・みき

◎教職歴 31 年。同校に赴任して 2 年目。倉敷工業高校、倉敷青陵高校などを経て、総社高校の教頭を務める。岡山大学文学部が開催する講演会「教科書からひろがる〈知〉の世界」の企画・運営に参画するなど、岡山県の教育力向上に尽力する。

生徒課長のＡ先生から、「三村先生は、**岡山の教育をどうしたいのか**」と問われたのは、３校目の勤務校である工業高校で５年目を迎えた頃です。生徒と真正面からぶつかりながら、「よいクラス」「よい授業」がつくれるようになったと自信を持った時期でした。また、工業高校からも国公立大学の推薦入試で合格者を出せるような体制を構築しようと、国語、数学、英語の先生方とプロジェクトチームをつくろうとしていた時でもありました。Ａ先生の言葉は、そのプロジェクトの進め方について相談した時に発せられたものでした。

予想外の問いかけに、私は「仕事の進め方の相談をしているのに、なぜ、そんな大きな話を？」と戸惑いました。「自分にとっては壮大なことすぎて、考えたこともありません」と答えた私に、Ａ先生は、「教師は、今できることをやるだけではなく、理想を持ち、５年先、10 年先の教育を考えなければいけないんだよ」とおっしゃいました。その時、私は「分かりました」と返事をしたと思います。でも、その後、私がＡ先生の言葉を思い出すことはありませんでした。

県内有数の進学校に異動して９年目、私は教職大学院への進学を勧められました。「私よりもふさわしい先生がいるのになぜ？ 子どももいるし、仕事、勉強、家庭の両立なんて……」と困惑しましたが、「三村先生が学んだことを、県全体に還元してほしい」と校長から言われた時、Ａ先生の言葉を思い出したのです。目の前のことに取り組むだけでなく、大きな視野で行動を選択すること、周囲からの求めに応えることも大切だ……Ａ先生の教えが、10 余年を経て胸に落ちた気がしました。私はすぐにＡ先生に相談のメールを送りました。Ａ先生の返信には、「自分が今できることだけでなく、求められていることを選びなさい」とありました。

教職大学院での学びを通して、私は、よりよい指導を岡山県全体で実現していくためには、教師一人ひとりにもっと勉強が必要だと実感しました。どんなに指導力があっても、その力を他者に伝わるように言語化し、理論と実践を往還できなければ、周囲を巻き込むことは困難です。教師こそ、学び続けなければいけない職業だと確信しました。

大学院で出会った研究者や小・中学校、高校の先生方と、私は、岡山の教育について語る会を立ち上げ、今年７月には、７回目の勉強会を開催しました。人脈が広がり、どんな時に、誰の力を借りればよいかが分かるようになったこと、自分の中の疑問や悩みをいろいろな人と考えることの楽しさを知ったことも、教師としての成長だと感じています。私以上に私のことを理解し、「きっとできる」と信じてくれる方々に出会えたからこその成長だと思っています。

実は、大学院進学にあたって、当時小学生と中学生の息子たちにも相談していました。返ってきた言葉は「お母さんは、それができる人だと思われたから声がかかったんだよね？」と、私の背中を強く押すものでした。仕事が忙しくて、ランドセルの中も見てあげたことがなかったのに、彼らは私のことを見てくれていたのです。

岡山県立総社高校　全日制／普通科・家政科／共学／1学年約 280 人／ 2019 年度入試合格実績（現浪計）国公立大は、北海道大、筑波大、岡山大、広島大などに 63 人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、同志社大、立命館大などに延べ 294 人が合格。